

## プログラム

第1部	第2部
<b>オージーサンズ</b> 1. Candy マントラもあるがやっぱり Pied Pipers か 2. What A Wonderful World 何と英国で大ヒット 実はベトナム反戦歌 3. Over The Rainbow オズの魔法使い OZ のテーマソング 4. Moon River ティファニーで朝食をどうぞ <b>メモリアル</b> <b>峰 純子</b> <b>笈田敏夫</b> <b>世良 譲</b> <b>ガールフレンド</b> <b>鈴木史子</b> 5. When October Goes Johnny Mercer 死後見つかった遺作の詞 6. A Lovely Way To Spend An Evening (+OZ) 史子さん OZ との初コーラス曲 <b>オージーサンズ</b> 7. The Night Has A Thousand Eyes 19世紀の詩がこの歌、同名の映画の原点 8. Polka Dots And Moonbeams 水玉模様と月の光がまぶたに残る 9. Can't Take My Eyes Off Of You フランキー・パリ(4seasons)がソロでヒット 10. Around The World <b>メドレー</b> OZSONS の 13 分間歌の世界一周 何カ国巡るかクイズです	<b>オージーサンズ</b> 11. ビートルズ・メドレー 3人バージョンのコーラス 雰囲気が変わる 12. Paper Doll ミルス・ブラザースの大ヒット曲から 13. Four Freshmen <b>メドレー</b> 超モダンなハーモニーにも挑戦 <b>ガールフレンド</b> <b>まきみちる</b> 14. Mack The Knife あのマッキーが、街に戻ってきたんだ！ 15. You Belong To Me (+OZ) 1996年に初めてつけたバックコーラス <b>中尾ミエ</b> 16. Blue Moon Rodgers & Hart の 1934年の名曲 17. Until I Met You/Satin Doll (+OZ) ベイシーとエリントンの名曲の掛け合い <b>THE GOODIES</b> 18. Chili Con Carne 肉入り唐辛子 テキサス料理をどうぞ 19. How High The Moon/Ornithology (+OZ) 8人の大合唱 迷子になりそう <b>オージーサンズ</b> 20. I'll Never Smile Again 初期のシナトラと Pied Pipers の大ヒット <b>全員</b> 21. Dream 全員でコーラスします 皆さんも一緒に

舞台監督:柳川弘行 音響:岡崎義彦 照明:岡田敏章

Official Site : <http://ozsons.com/>

(2013/6/15 THE OZ SONS)



草月ホール 2013年6月15日(土)

本日はオージーサンズのコンサート“THE OZ SONS with Their Girl Friends”にご来場いただきありがとうございます。1990年暮のスリー・グレイセスの復帰コンサートに刺激され、オージーサンズの前身となるグループが、小島恂の呼びかけで結成されました。

1997年に小島、清田、若山の3人がピアニストの大原江里子のもとで真面目に練習を始めました。その2年後、スリー・グレイセス・コンサートのゲストとして呼ばれ、オジサンたちは初めて青山日本青年館大ホールのステージに立ちました。この時に THE OZ SONS というグループ名が付けられました。それまでは「いつものオジサン・コーラス」と呼ばれていましたので、それを文字ってつけたグループ名です。2001年には海外駐在の栗本が帰国し、現在の4人になりました。もともとは赤坂リトルマヌエラに通ってくるオジサン同士の集まりです。



若山邦紘 清田 滋 小島 恂 栗本滋雄

この10何年かの間、いろいろな場所で、プロ・アマ問わず仲のよいミュージシャンの皆さんの誘いや助けを借りて歌い続けてきましたが、自前のコンサートを開催したことはありません。本日が初のコンサートとなります。今年の6月でオージーサンズは平均年齢が68歳になりました。

ぐずぐずして歌えなくなるといけません。やるなら「今でしょ！」

## 出演者紹介

### オジサンたちのガールフレンド



**鈴木史子 (Vocal, Goodies)** 作曲家・浜口庫之助に師事し、学生時代よりジャズシンガーとして広く知られた存在であったが、結婚を機に活動を休止し、子育てが一段落した39歳で活動を再開。数多くのジャズのライブシーンで注目を集め、活発な活動を続けている。現在はライブハウス、ホテル、ディナーショーなど幅広い活躍で好評を博す。特に、2001年が最後だったオリジナル・コンサート“Keep Shining”が、9月23日に復活しサントリー大ホールで開催されることになっている。Goodiesの皆さんもオジサンたちも出ますよ。



**まきみちる (Vocal)** 40数年前に「若いって素晴らしい」でヒットを飛ばしアイドル歌手のはしりとなった。まきみちるはポップス・シンガーとして活躍していたが、芸能界の水が合わず1970年に引退し、スタジオシンガーへ転進、商業ソングなど地道な活動を続けてきた。歌の上手さはジャンルに関係ない。ポップスはもちろんのこと、ロックもスタンダード・ジャズも何でも歌ってしまう。オージーサンズと一緒に歌ったプロ歌手の中ではまきみちるが最初である。2006年発売のCD“Maki's Back in Town”は音楽通からの評価が高い。



**中尾ミエ (Vocal)** 「可愛いベイビー」はどこでも知っている。平岡精工に師事しスタンダード・ジャズを歌っていたのが、ナベプロの3人娘の1人としての活躍は、ついこの間のことだ。ゴマシオになった髪の毛を染めないという各界のゴッド・マザーが4人集まって、2008年からチャリティ活動を始めた。チーム・ソルトンセサミという。翌年にはホテルオークラで一大チャリティ・パーティが開催され、オージーサンズにも声がかかり500名のお歴々の前でフルバンドのバックで歌った。翌年はミエ&オージーサンズで歌ってしまった。



**THE GOODIES (Chorus)** 16年ほど前に西麻布にINDIGOというピアノバーができた。大原江里子がオーナーの店だ。当時、ライブ出演のボーカルは3人に決まっていた。それは峰 純子、鈴木史子、まきみちるだった。まきみちると鈴木史子の2人が、スタジオシンガーの伊集

加代、和田夏代子を誘い内緒で2曲を練習した。それをクリスマス・パーティのサプライズでオジサンたちに聴かせた。まるでカウント・ベイシー楽団の音だった。良すぎて頭がおかしくなった。その4人が現在のグデーズの前身である。2人が抜けて、野呂ひとみ、斉藤妙子に加わり、ピアノと音楽監督の大原江里子もグデーズの一員となった。4-FreshmenのVince JohnsonがThe Goodiesと命名した。



**和田夏代子 (Goodies)** 独協大学在学中よりアマチュアとして音楽活動を開始、ヤマハ・ポプコン等に出演。卒業後、スタジオシンガーの道へ。バックিং・ヴォーカリストとして大滝詠一、ユーミン、井上陽水を始め数々のポップス・ニューミュージックを中心にレコーディングに参加、日本人に稀なチャーミングな声質と正確な発音で評価も高い。



**野呂ひとみ (Goodies)** 高校生の頃からカレッジフォークブームの中“オッコとミミ”として活動を始め人気を博す。短大卒業後、ソロシンガーとしてスタート、TVのレギュラー(みんなの歌、オールナイトフジ等)やディズニー“眠れる森の美女”の吹き替え等をつとめる。その後、スタンダードを歌い始め、またCMソングの世界にも進出。



**斉藤妙子 (Goodies)** 武蔵野音大卒業後スタジオシンガーの道へ。透き通った高音と幅広い音域、譜面の理解度を評価され第一線で活躍中。ポップスから演歌・クラシック、商業ソング、アニメソングまでこなすマルチシンガー。多彩な表現力で数多くのセッション・レコーディングに参加している。その他にも音楽センターの講師を務めている。

### バック・ミュージシャン



**大原江里子 (ピアノ・編曲)** オージーサンズの面倒を見続けてきた。八城一夫にジャズピアノを師事し、才能を認められアテネ音楽院の講師を10年間務めた。その後ジャズピアニストとしてライブ活動をはじめ、ソロイスト、バンドリーダーとして活躍。コーラス・アレンジに長け、プロ・アマのコーラス・グループを育成してきた。なんとその中でオージーサンズが誰よりも古い。それだけオジサンたちはじいじだという事。



**横山 裕 (ベース)** 慶応大学モダンジャズソサエティーでベースを始め、ジャズと並行して、クラシックをN響のコントラバス奏者、瀬戸川道男に師事。卒業後プロ入りし、小林洋・シャイニーストッキングス、小野リサ、松本英彦、沢田靖司、ジョージ大塚らのグループで活動してきた。沢田靖司トリオの時代にDolly Bakerに「ユタカちゃん」と可愛がられTennessee Waltzのブルース版をデュオでよく演奏した。ベースの貴公子と呼ばれている。



**木村由紀夫 (ドラムス)** 東海大学ジャズ研究会出身。1972年、赤坂「ミカド」のハウスバンドでプロとしてスタート。OZSONSを大切にしてくれた世良 譲さんの最後の10年間には世良トリオのドラムスを務めた。何でも凝り性で、この人の趣味は人並みはずれている。「物集めに物作り」電気機関車の模型コレクションなど、今では珍しくなった。ライカのミニカメラも面白い話があり、由紀夫ちゃんはずいぶん変わった物が好きだ。おかげでよく話が合う。



**水口昌昭 (ギター)** 在日のフランス人ミュージシャン、パトリック・ヌジェに見いだされ、ヌジェのバンドのギタリスト・音楽監督として80年代半ばから活躍していた。東京ホットクラブバンド他のレギュラーギタリストとしても活動中。オジサンたちには「笑うセールスマン」ではなく「笑うギターマン」と呼ばれる。マヌエラのパーティでは常連である。乗り乗りのギターは、歌っていても気持ちがいいし、ソロをとってくれる時も楽しみのひとつ。



**右近 茂 (テナーサクソ)** 神戸生まれのテナーサクソ・クラリネットの奏者。上京後、都会的でオーソドックスにスイングするテナーマンとして注目を集め、世良譲、北村英治、藤家虹二、猪俣猛ら大御所のミュージシャンとの多くの共演でキャリアを積んだ。昨年8月には鈴木史子のライブでオージーサンズが応援に押しかけて、右近さんのテナーをバックに歌った。最近ではゴルフに熱中、アマチュアのレベルではないとTODOSという後輩が保証している。



**高瀬龍一 (トランペット)** 福岡県生まれの現在最も注目されているトランペッター。11歳の頃よりトランペットを始める。プロデビューは、師匠である福原彰の没後結成された福原彰メモリアルオーケストラで。今年、2月には自身の「高瀬龍一ビッグバンド」を旗揚げし、新宿のSOMEDAYを超満員にしたという記事が出ていた。オージーサンズにとっては貴重な初顔合わせのミュージシャンである。本番が楽しみだ。